

作手地区視察および「まちづくり大茶話会 in 作手」(7/30)で気づいたこと、考えたこと

ファシリテーター 今井 邦人 (2010.8.6)

1. 作手地区視察（協和コミュニティ協議会）

- ・小学校区という地域自治単位（旧作手村では4つの小学校）での協議会活動
→旧新城市、旧鳳来町にもある？
- ・合併前からの活動を地域主体で継続している側面がある。
- ・合併後、「夢おこし活動」として、地域資源の見直しから、新たな活動の展開を図る
→合併による「新市の一体感の醸成、価値観の共有」（新市まちづくり計画、p71）というよりは、地域の誇り、アイデンティティ、個性化の方向性。
- ・活動の担い手（元気シニア+現役世代）…「現役時は外へ出ていても退職後は地域に尽くす」
- ・小学校児童数の減少（小学校中心の活動に対して）
→将来どうなっていくのか？（5年後、10年後、…）

2. まちづくり大茶話会 in 作手

- ・「オール作手」の話題が中心だった。（午前中の協和小学区の話に対して）
- ・「サマカン（サマーカントリーフィーバー）」(8/15)などの(旧の)全村的行事を、みんなの楽しみ、転出者の貴重な帰郷の機会として、合併後も住民が一生懸命支えている。
- ・当日は、「森の音楽祭」という行事もあり、参加者が少なかった。逆にいえば、地域住民が主催する行事が非常にさかん。（つくでまつり）
- ・主催行事がさかんだが、担い手の問題、作手地区の中で閉じている傾向が強いとの話。
- ・農業、自然、観光

3. 全体を通して

- ・旧作手村の、様々なむらおこしの取り組み（あるいはその心）が、今も地域住民の皆さんによって誇りとともに大切に継続されているものがある。しかし、地域に閉じていては衰退してしまう恐れがある。
- ・合併でできた新城市の中で、地域の個性（自立的な面）を伸ばしつつ、お互いの連携・交流を図ることができないだろうか。
- ・協和コミュニティ協議会・森田会長の言葉に手がかりが。
…「今年2月の『鹿うち神事』に、よそから人が訪れたことを喜ぶ地元のおばあさんのつぶやきに、よその人の評価が地元の人の気持ちを変える効果があることに気づき、『夢おこし活動』への疑念がなくなった」